

喜ばれることに喜びを

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2016年度を振り返りますと、マイナス金利政策の導入にはじまり消費税率引き上げの再延期や、トランプ氏のアメリカ大統領就任など、大きなニュースに揺れ動きました。わが国を取り巻く環境は、地政学的リスクの増大や原材料価格の高騰、人材不足など先行きに対する不安要素が多く指摘されております。とりわけ国内景気については住宅着工戸数の増加や求人倍率の上昇が続くなど改善傾向を示す一方で、個人消費は依然として足踏み傾向が見られます。一部の大手企業では最高益更新などの報道もございますが、地域の事業者様の経営環境は依然として厳しく「不確実性」や「不透明感」という活字が相変わらず目立っているように感じております。

このような環境のなか、当金庫はこれまで資金ニーズへのスピード対応、補助金の申請、創業の応援、販路拡大や事業承継など、さまざまな経営に関する課題解決のお役に立てるよう全力で取り組んでまいりました。今後も信用金庫の本分である相互扶助の精神を中心に据え、地域の方々に寄り添い、お役に立って喜んでいただけることを何よりも大切にしたいと考えております。金融業務はもちろんのこと、地域の情報のご提供をはじめ、どのようなご相談にも全力で対応いたしますので、身近なパートナーとして当金庫をご活用いただければ幸いです。

決算について申し上げますと、おかげさまで預金残高は、1兆7,584億円、融資残高は8,832億円となり業容は伸長することが出来ました。収益はマイナス金利政策の影響を受け、当期純利益は34億円となりました。また、金融機関の安全性を測る指標の一つである自己資本額は37億円の増加となり財務基盤は安定しております。これからも安心してお取引いただけるよう努力してまいりますのでございます。

地域活動の一環として実施しております「おもてなし処」も開催から25年が経過いたしました。巣鴨とげめき地蔵尊の縁日（四のつく日）に参詣される方々の休憩所として、2017年3月までに115万人の皆様にお越しいただきました。これからも地域の憩いの場として、多くのお客様のご来場を心よりお待ちしております。

2017年4月4日に当金庫はおかげさまで創立95周年を迎えることが出来ました。1922年（大正11年）に相互扶助と地域の発展のために創業し、今日まで合併することもなく歩んで来られたのも、地域の皆様のご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。さらに100周年に向け、当金庫はこれからも【喜ばれることに喜びを】をモットーに、より多くのお客様から「取引して本当によかった」とおっしゃっていただけるホスピタリティ溢れる信用金庫を目指してまいります。

今後とも末永く変わらぬご愛顧と、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

2017年7月
理事長 田村 和久